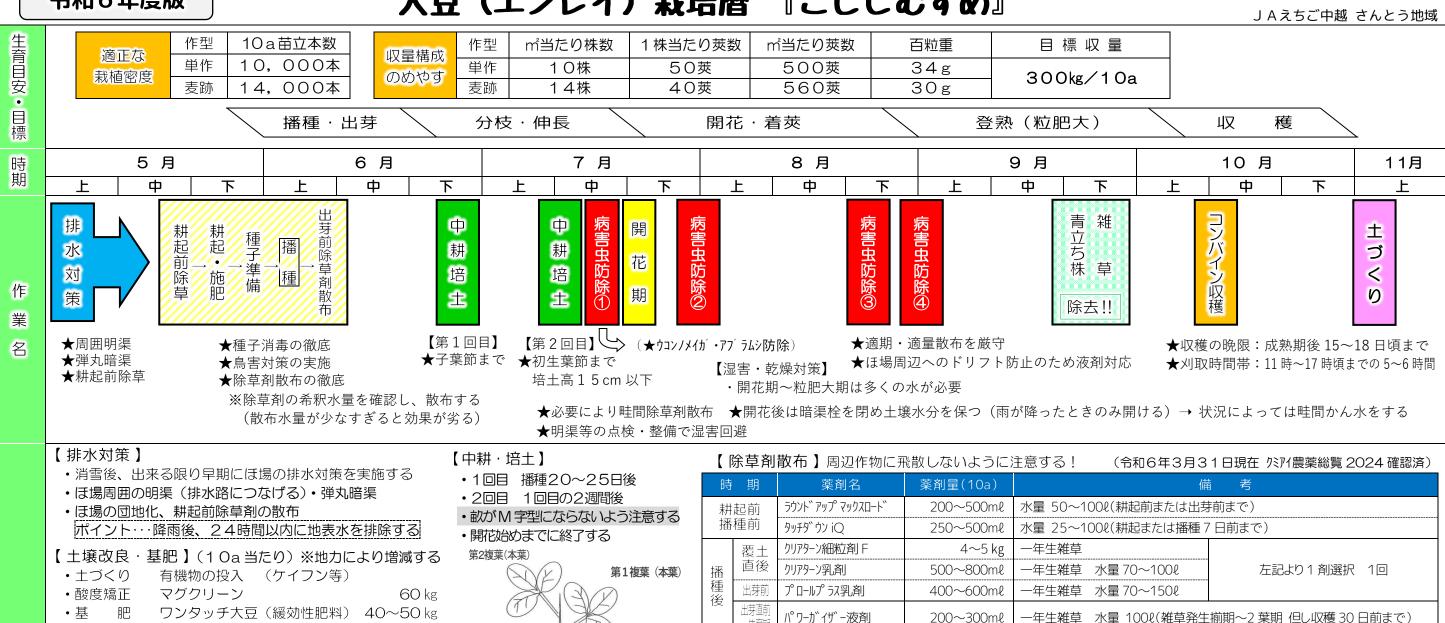
大豆 (エンレイ) 栽培暦 『こしじむすめ』



【 追 肥】(10a当たり)

・湿害による黄化や生育不良などが見られた場合は、速効性 肥料により培土時または開花期に追肥する

国産化成肥料 14-14-14

有機入り大豆配合2号

・地力の低いほ場や連作ほ場は、しわ粒の発生軽減と増収の ため、緩効性肥料により2回目培土時に追肥する(ただし、 基肥に緩効性肥料を施用した場合は重複施用しない)

【種子準備】

作

業

の

ポ

1

- ★ ルートビーズ種子塗沫処理

種子更新 100% → 根粒菌が働くまでのスターター肥料
種子塗抹処理 ・ (種子 1kg:8 mℓ使用)*クルーザ-前に処理

 $12 \sim 24 \, \text{kg}$

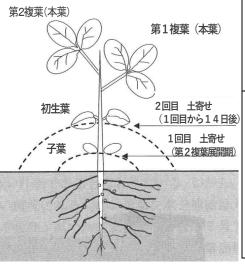
 $20 \sim 40 \, \text{kg}$

薬剤量(1 kg) 薬剤名 対象病害虫 苗立枯病、紫斑病、茎疫病、黑根 クルーザー 原液 8ml塗沫 腐病、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ MAXX 類、フタスシ゛ヒメハムシ、ハト、キシ゛ハ゛ト

•播種量:単作4~5kg(8~10本/m)5月25日~6月上旬 麦跡 5~6 kg (12~15 本/m) 6月中旬 ポイント・・・播種時期に合わせて栽植密度を調整

★排水条件が悪い場合・・・

→『畝立播種栽培』で発芽・苗立ちを安定させる



	時	期	薬剤名	薬剤量(10a)	備	考	
		起前	ラウント゛アップ゜マックスロート゛	200~500ml	水量 50~100ℓ(耕起前または出芽前まで)		
	播種前		タッチダ゚ウン iQ	250~500ml	水量 25~100ℓ(耕起または播種 7 日前まで)		
	播 種 後 -	覆土 直後	クリアターン細粒剤 F	4∼5 kg	一年生雑草		
			クリアターン乳剤	500~800ml	一年生雑草 水量 70~100ℓ	左記より1剤選択 1回	
		出芽前	プロールプラス乳剤	400~600ml	一年生雑草 水量 70~150l	揃期〜2 葉期 但し収穫 30 日前まで)	
		出芽直前 ~生育期	パワーガイザー液剤	200~300ml	一年生雑草 水量 100ℓ(雑草発生		
17000		全面	ポ ルトフロアフ゛ル	200~300ml	一年生イネ科雑草 水量 25~100年	2(雑草生育期~収穫 30 日前まで)1 回	
後)		畦間	ワンサイドP 乳剤	75~100ml	一年生イネ科雑草 水量 25~100ℓ(雑草生育期~収穫60日前まで)1回		
用)	雑草生育期	処理	大豆バサグラン液剤	100~150ml	一年生雑草(イネ科除く)水量 100ℓ	開花前まで(収穫 45 日前まで)1 回	
43/		畦間 処理	ラウント゛アップ゜マックスロート゛	200~500ml	一年生雑草 水量 50~100ℓ(雑草	生育期~収穫前日まで)2 回以内	
			タッチダ゚ウン iQ	250~500ml	一年生雑草 水量 25~50ℓ(雑草生	三育期~収穫前日まで)2 回以内	
			ザクサ液剤	300~500ml	一年生雑草 水量 100~150ℓ(雑草	生育期~収穫 28 日前まで)3 回以内	
			バスタ液剤	300~500ml	一年生雑草 水量 100~150ℓ(雑草	生育期~収穫 28 日前まで)3 回以内	
		土壌	ダイロンゾル	100~200ml	一年生雑草 水量 100ℓ(雑草生育期	~収穫 30 日前まで)1 回以内	

【 病害虫防除 】周辺作物等に飛散しないように注意する!

na Alam Pach Male Mix O dv iot D le 在版 y d :									
区分	時 期	対象病害虫		薬剤名					
甘松叶岭鱼鱼	7月第2半旬~8月第1半旬	ウコンノメイガ		プレバソンフロアブル5					
基幹防除①·②	※前年多発ほ場は7月の発生状況を要観察	アブラムシ		スミチオン乳剤					
	0月20日 - 25日頃	紫斑病 子実害虫	地上防除	アミスター20 フロアブル					
基幹防除 ③	8月20日~25日頃			トレボン乳剤					
	(開花期4週間後頃)		ラジヘリ	アミスタートレボン SE					
甘於院院 (4)	0日第5岁包-0日第4岁包	マメシンクイガ等		プレバソンフロアブル5					
基幹防除 ④	8月第5半旬~9月第1半旬			アディオン乳剤					

|ポイント・・・開花期や病害虫の発生状況を把握し適期防除 → 薬剤が株元までかかるように丁寧に散布する

【刈取】

- ・ 完全に落葉し、 莢が褐色になった頃が成熟期 試し刈りを行い汚粒や損傷粒の発生状況、子実 水分等を確認してから適期に刈り取る
- 汚粒防止のため、雑草や青立ち株を取り除く

汚粒の発生しやすい時刻は収穫を避ける

刈り取り高さ・土砂の掻き込みに注意する

適期刈り取りに努める

【乾燥・調製】

共同乾燥調製施設へ搬入する